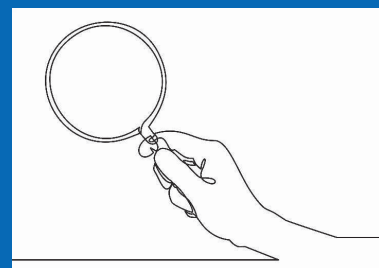


# 日本語教室の開設に向けた ニーズ把握に関する情報提供

文化庁「地域日本語教育スタートアッププログラム」アドバイザー  
専門社会調査士・国家資格キャリアコンサルタント

群馬大学 結城 恵  
yuki@gunma-u.ac.jp



## 本日の講演

- 1 調査のスタートラインに立つ
- 2 調査を設計する
- 3 調査を実施する

# 自己紹介

## ●専門社会調査士

(社会調査士の育成を 質的調査・量的調査 博士論文で両手法を統合)

## ●インタビュー法(質的調査法)

(エスノグラフィック調査法・傾聴法・システマティックアプローチ等)

## ●調査の困難さが極めて高かったものTOP3 (研究代表者のもの)

- ・在住外国人の子どもの不就学状況の継続・解消メカニズムに関する比較社会学的研究(2014~2020年度)
- ・群馬県みなかみ市在住外国人実態調査(2012年度)
- ・文部科学省「外国人教育に関する調査研究－南米系外国人学校に関する基本情報調査(2005~2010年度)→文部科学省「虹の架け橋教室」の根拠調査 他

2

## 1 調査のスタートラインに立つ



「調査すべきこと」≠「調査したいこと」

地域の外国人住民の  
所在の確認は必要。  
でも、ちょっと待って！  
この事業の趣旨は？

顔の見えない外国籍住民の  
みなさん。  
いったいどこにいるのだろう？  
個人情報保護という厚い壁が  
あるし、手掛かりはどこに？



1回の教室に5人以上外国  
籍住人が来てくれないと、  
経費が支払えない。教室は  
成立するのだろうか…。

私も経験しました…  
悩みました…

3

# 1 調査のスタートラインに立つ



「調査すべきこと」≡「調査したいこと」



まずは、「調査すべきこと」を確認する

- (1) 「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消事業が求めていることは何かの確認
- (2) 自分たちの地域でこの事業を展開するニーズがどこにあるのかの確認
- (3) この事業が導入されることによる、自分たちの地域の未来予想図の確認

4

# 1 調査のスタートラインに立つ



「調査すべきこと」≡「調査したいこと」



まずは、「調査すべきこと」を確認する

## ●「生活者として外国人」のための日本語教育事業実施要綱 から

(目的)

第1 本事業は、日本国内に①定住している②外国人等を対象とし、③日常生活を営む上で必要となる日本語能力を習得できるよう、④NPO法人等が行う各地域における日本語教育に関する優れた取組の支援をすることにより、⑤日本語教育の推進を図ることを目的とする。


文化庁「『生活者としての外国人』のための日本語教育事業実施要綱」  
www.bunka.go.jp/shinsei\_boshu/kobo/pdf/93653101\_03.pdf(2022年11月20日確認)  
番号は講演者が挿入。

5

# 1 調査のスタートラインに立つ

 「調査すべきこと」≡「調査したいこと」

 まずは、「調査すべきこと」を確認する

 本事業が想定しているニーズが  
自分の地域では「どうなのかな？」と問うてみる


「①定住している②外国人等を対象とし」 → 自分の地域には  
②外国人等がどこにどれくらいいるの  
だろうか？  
→ ①その中に「定住している」人はどれくら  
いいるのだろうか？


6

# 1 調査のスタートラインに立つ

 「調査すべきこと」≡「調査したいこと」

 まずは、「調査すべきこと」を確認する

 本事業が想定しているニーズが  
自分の地域では「どうなのかな」と問うてみる


「③日常生活を営む上で必要となる  
日本語能力を習得できるよう」 → 自分の地域の外国人定住者は  
そもそも、日常生活を営む上で日本語に不自由  
しているのだろうか？ ←前提を問うこと   
→ 不自由していないとすればなぜなのか？  
→ 不自由しているとすればどんな時なのか？

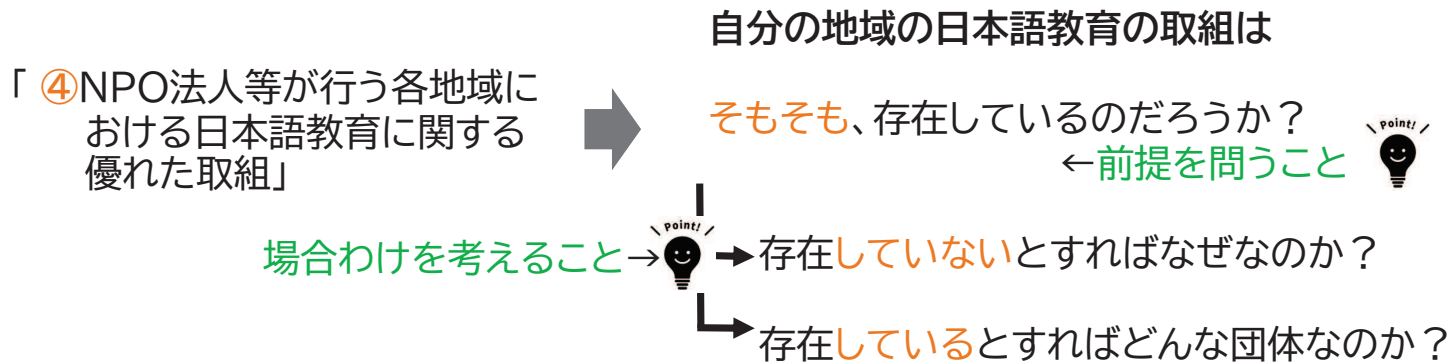
7

# 1 調査のスタートラインに立つ

 「調査すべきこと」≡「調査したいこと」

 まずは、「調査すべきこと」を確認する

 本事業が想定しているニーズが  
自分の地域では「どうなのかな」と問うてみる



8

# 1 調査のスタートラインに立つ

 「調査すべきこと」≡「調査したいこと」

 まずは、「調査すべきこと」を確認する

## ●「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業 募集要項から

### 1. 目的

本プログラムは、「生活者としての外国人」を対象とした日本語教室が開設されていない地域(以下、「空白地域」という。)となっている市区町村(政令指定都市の区を含む、以下同じ)に対し、地域日本語教育の専門家の派遣や、コーディネーター等に係る経費を支援することにより日本語教室の設置に向けた取組を推進し、もって各地に日本語学習環境が整備され、日本語教育の推進が図られることを目的とします。

9

# 1 調査のスタートラインに立つ

 「調査すべきこと」≡「調査したいこと」

 まずは、「調査すべきこと」を確認する

## 1. 目的


本プログラムは、①「生活者としての外国人」を対象とした②日本語教室が開設されていない地域(以下、「空白地域」という。)となっている市区町村(政令指定都市の区を含む、以下同じ)に対し、③地域日本語教育の専門家の派遣や、コーディネーター等に係る経費を支援することにより④日本語教室の設置に向けた取組を推進し、もって各地に⑤日本語学習環境が整備され、⑥日本語教育の推進が図られることを目的とします。

10

# 1 調査のスタートラインに立つ

 「調査すべきこと」≡「調査したいこと」

 まずは、「調査すべきこと」を確認する

 本事業が想定している因果関係が  
自分の地域では「どうなのかな？」と問うてみる

②生活に必要な日本語を習得できていないので


③地域の人々とかかわりがなく孤立している




①外国人住民が生活するうえで、苦勞している

↓前提を問うこと ↑

↑前提を問い、場合わけを考えること

 そもそも、自分の地域の定住外国人住民の実態は、どうなのだろうか？


 そもそも、苦勞しているのだろうか？  
苦勞しているとすれば・・・していないとすれば・・・

11

# 1 調査のスタートラインに立つ

 「調査すべきこと」≡「調査したいこと」

 まずは、「調査すべきこと」を確認する

 本事業が想定している因果関係が自分の地域では「どうなのかな？」と問うてみる


②生活に必要な日本語を習得できていないので

③地域の人々とかかわりがなく孤立しているのだ

②日本語教室が開設されていないから（空白地域）

③地域日本語教育の専門家やコーディネーター等が存在しないから


↑前提を問い、場合わけを考えること

 そもそも、定住外国人住民は、日本語教室に行かないと、上記②も③も解消されないのだろうか？  
苦労している・していない外国人住民は、それぞれなぜ？

①外国人住民が生活するうえで、苦労している

12

# 2 調査を設計する

 「1 調査のスタートラインに立つ」でやっていたことは、私たちの「あたりまえ」や「思い込み」を取り除き、実態を俯瞰すること。



 「2 調査を設計する」段階では、俯瞰した実態を適切な方法で深掘りできるようにする

13

## 2 調査を設計する



「2 調査を設計する」段階では、俯瞰した実態を適切な方法で深掘りできるようにする

「①定住している②外国人等を対象とし」



自分の地域には

②外国人等がどこにどれくらいいるのだろうか？

①その中に「定住している」人はどれくらいいるのだろうか？



深掘りしてみよう・もっと理解してみよう

- その人たちは、どれくらいの期間、定住しているのだろうか？
- 定住のきっかけはなんだったのだろうか？
- あとどのくらい定住する予定のだろうか？
- その判断にどんな事情が影響を与えているのだろうか？

14

## 2 調査を設計する

②生活に必要な日本語を習得できていないので

③地域の人々とかかわりがなく孤立している



①外国人住民が生活するうえで、苦勞している

↓ 前提を問うこと



そもそも、自分の地域の定住外国人住民の実態は、どうなのだろうか？

↑ 前提を問い、場合わけを考えること



そもそも、苦勞しているのだろうか？  
苦勞しているとすれば・・・していないとすれば・・・



深掘りしてみよう・もっと理解してみよう

- 自分たちの地域で、知らないと生活に困る日本語ってどんなものがあるのだろうか？
- 地域の人々との関りって、どのように持てるようになったのだろうか？
- 地域の人々との関りについて、定住外国人住民は、どのように思っているのだろうか？
- 自分たちの地域で、生活に困ったというときは、どのように対処しているのだろうか？

15



## 2 調査を設計する



「1 調査のスタートラインに立つ」でやっていたことは、私たちの「あたりまえ」や「思い込み」を取り除き、実態を俯瞰すること。



「2 調査を設計する」段階では、俯瞰した実態を適切な方法で深掘りできるようにする

お疲れ様  
でした



ここまでいかがでしたでしょうか？  
どんな気づきがありましたか？

- 調査のスタートライン&設計には多様な視点が不可欠
- 本事業を実施するときに想定される様々な属性(年齢・国籍・職業等)のみなさんに協力してもらえるといいですね。もちろん、当事者にも！

16

## 3 調査を実施する



- 調査のスタートライン&設計には多様な視点が不可欠
- 本事業を実施するときに想定される様々な属性(年齢・国籍・職業等)のみなさんに協力してもらえるといいですね。もちろん、当事者にも！

実は、調査のスタートライン設計段階の多様な人々・組織等の巻き込みは、その後の、調査の実施、事業の実施、PDCAサイクルの実施の成功の鍵を握る

ニーズ調査・事業の実施、PDCAサイクルの実施に必要な、社会調査の専門家と関係機関を俯瞰しコーディネートできる人財の発掘も期待される

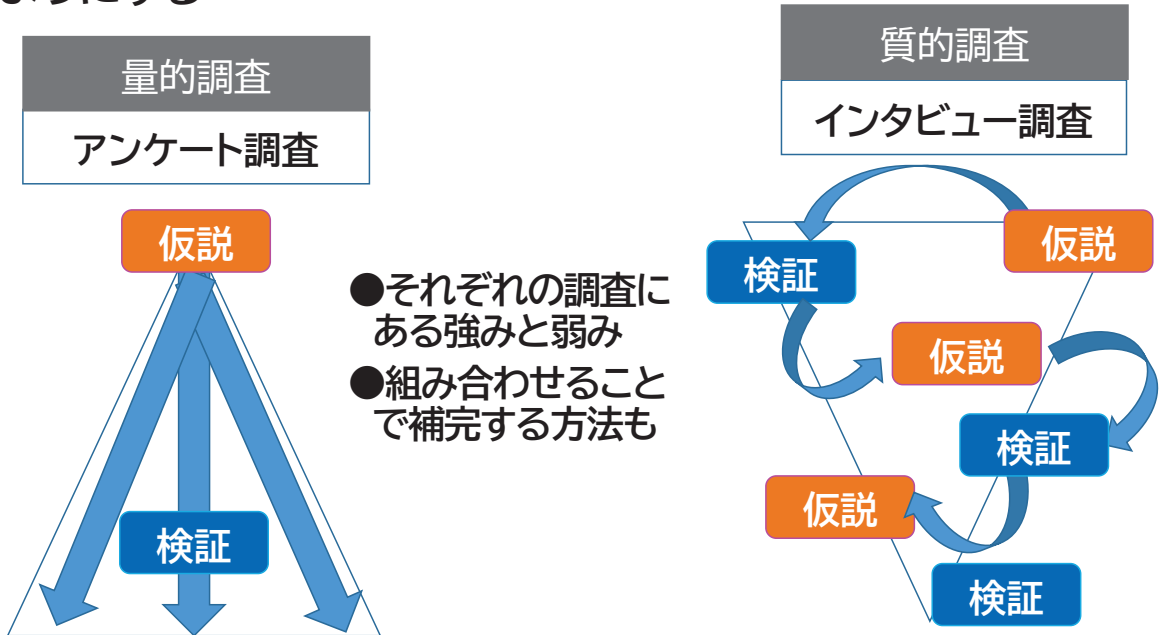


17

### 3 調査を実施する



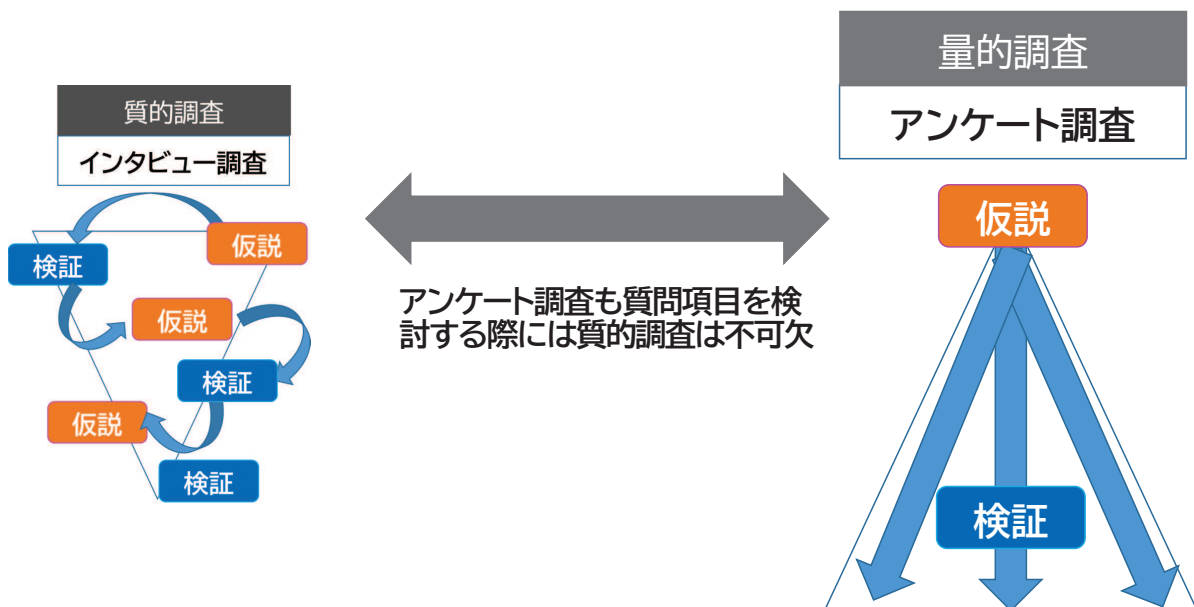
「2 調査を設計する」段階では、俯瞰した実態を適切な方法で深掘りできるようにする



### 3 調査を実施する



「2 調査を設計する」段階では、俯瞰した実態を適切な方法で深掘りできるようにする



## 3 調査を実施する



### 倫理的配慮をしたニーズ調査を

一般社団法人社会調査協会は、定款第4条に基づき、会員が社会調査の全過程において遵守すべき倫理規程を定める。

会員は、質の高い社会調査の普及と発展のために、本規程を十分に認識して遵守し、調査対象者および社会の信頼に応えなければならない。また社会調査について教育・指導する際には、本規程にもとづいて、社会調査における倫理的な問題について十分配慮し、調査員や学習者に注意を促さなければならない。

社会調査の実施にあたっては、調査者の社会的責任と倫理、対象者の人権の尊重やプライバシーの保護、被りうる不利益への十二分な配慮などの基本的原則を忘れては、対象者の信頼および社会的理解を得ることはできない。調査対象者の協力があつてはじめて社会調査が成立することを自覚し、調査対象者の立場を尊重しなければならない。会員は、研究の目的や手法、その必要性、起こりうる社会的影響について自覚的でなければならない。

本規程は、社会調査協会会員に対し、社会調査の企画から実施、成果の発表に至る全過程において、社会調査の教育において、倫理的な問題への自覚を強く促すものである。

一般社団法人社会調査協会倫理規程

20

## 3 調査を実施する



### 倫理的配慮をしたニーズ調査を



21

## 3 調査を実施する 考慮すべき事項(例)

- 1 研究の目的および意義
- 2 研究の方法  
(1)対象 (2)方法 (3)データ収集と解析方法
- 3 研究対象者の選定方針
- 4 研究の科学的合理性の根拠  
(1)研究人数およびその設定根拠 (2)解析や評価の方法
- 5 インフォームドコンセント/インフォームド・アセントを受ける手続き
- 6 情報の採取、保管、および破棄の方法について
- 7 個人情報の取扱いについて
- 8 研究対象者への負担や予測されるリスクおよび利益、リスクを最小化する方法について
- 9 研究成果の論文化、情報公開の方法について
- 10 研究対象者からの相談への対処法について
- 11 その他